



古伊万里にみる うわぐすり展

2018年1月7日(日)
～3月21日(水・祝)

釉薬(うわぐすり/ゆうやく)とはやきものの表面を覆うガラス質の膜のこと。釉薬は、焼成時に起こる化学反応によって色や質感といったうつわの装飾性を高め、さらに耐久性・耐水性を付加する役割も担っています。

釉薬と一口に言っても、じつに様々ですが、江戸時代に肥前で主に使用されていたのは、透明釉、青磁釉(せいじゆう)、瑠璃釉(るりゆう)、錆釉(さびゆう)の4色。絵付けを一切伴わず、釉薬の色と質感のみでうつわの造形を引き立てているものや、ひとつのうつわに複数の釉薬を施したものなど、様々なやきものが作られました。例えば同じ青磁と称されるものであっても、製作時期の違いで釉薬の発色が異なります。また同時期に作られたもの同士でも異なる発色を呈していたり、あるいは似た色調であったりと、その表現の幅広さには驚かされます。うつわに掛かった釉薬の色は、うつわの性格を決定づける大事な要素のひとつと言えるでしょう。

今展では、筆で描かれた文様ではなく、釉薬の色による装飾に注目し、伊万里焼を中心に約80点をご紹介します。種類や施釉方法、時代や焼成状況によって変化する、うつわひとつひとつの表情を、ご堪能下さい。



展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館 広報担当宛
〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813
E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp



古伊万里を演出する釉薬の魅力満載

○釉薬（うわぐすり／ゆうやく）・・・うつわに施すことで、色つやなどの装飾性を高め、耐水・耐久性を付加する。

○施釉（せゆう）・・・うつわに釉薬を掛ける（施す）こと。

『古伊万里にみるうわぐすり展』では、釉薬によってもたらされる色の装飾に注目して、古伊万里に施された4色の釉薬の魅力を追求いたします。加えて、釉薬をうつわに掛けて焼成するまでの工程や釉薬とは何か等といった基本からパネルでわかりやすく解説。さらに、[当館学芸員が釉薬のテストピースを作成](#)。含有する成分や、施釉方法によってどのような変化が見られるのか、その経過を展示いたします。

魅力あふれる伊万里焼を中心とした約 80 点の出展作品から、釉薬による、多様な表現をご覧いただける展覧会です。

見どころ ① 古伊万里を彩る 4 色の釉薬

釉薬にはじつに様々な種類のものがあり、発色や手に取った時の感触などうつわの魅力を語る上では欠かせない存在です。伊万里焼で主に見られるのは、透明釉、青磁釉（せいじゆう）、瑠璃釉（るりゆう）、錆釉（さびゆう）の4色。それぞれの特性を生かした表情豊かな伊万里焼が作られました。これら4色の釉薬に注目し、各色製作年順に並べて展示いたします。時代による色の変遷、ないしは同時期に作られたもの同士を比較しながらご覧ください。



(左) ① 青磁瑠璃錆釉 鶴亀松竹梅文 三足皿

伊万里 江戸時代（17 世紀中期） 口径 22.2 cm

見込に陽刻であらわした青海波文を背景として鶴亀と松竹梅、その周囲には葡萄文の透かし彫りを施した三足皿。文様に合わせて塗り絵のように釉薬を施しており、繊細な器形と色とりどりの色彩が相俟って面白みを感じる。精緻な造形と上品な色遣いが調和した優品。

(右) ② 青磁瑠璃錆釉 葡萄文 葉形皿

伊万里 江戸時代（17 世紀中期） 口径 15.7 cm

型によって葡萄の葉を模した皿。全体に錆釉が施されており、葉脈がうっすらと浮かび上がる様が趣深い。見込に丸く施された青磁釉・瑠璃釉・透明釉によって葡萄の実をあらわした洒落た意匠である。5 客揃いで伝世しているが、釉薬の掛かり具合によって1 客ごとに表情が異なるのも見所のひとつ。



※作品①～⑤の写真データ等をご用意しております。
ご掲載の際は、別紙写真借用申請書をお送り下さい。

見どころ ② 単色釉の潔い美

伊万里焼には、器面に文様を描いたものや、ひとつのうつわに複数の釉薬を掛け分けたものなど、多様な装飾がみられます。様々な装飾表現がある中で、それらを一切伴わないものも。このような単一の釉薬のみを使用したタイプは色調の変化のみで、うつわに施された凹凸文様や、うつわそのものの造形を引き立てています。単一の釉薬を掛けた伊万里焼の品格のある美しさに注目してご鑑賞ください。

(右) ③ 瑠璃釉 瓢形瓶

伊万里 江戸時代（17世紀中期） 高 19.5 cm

堆線(ついせん)と呼ばれる白泥を盛り上げてあらわした曲線によって、捻った器形のように見せている瓢箪形の瓶。全体に瑠璃釉が掛けられ、堆線部分や口縁など釉薬が薄くなった部分には素地の白が調子良くあらわれている。高台内は透明釉を掛け、白い地肌を見せる。一対で伝世。



(左) ④ 白磁 蔓草文 瓢形皿

伊万里 江戸時代（17世紀後半） 口径 19.9×8.6 cm

瓢箪形の皿。原料に含まれる不純物を極力取り除いて作られた、柔らかな印象の白磁素地が美しい作品である。器形に沿って陽刻した蔓草は、類品の中でも特に細部まで明瞭に文様があらわれており、釉薬を極薄に掛けるなどの丁寧な作行きがうかがえる。口縁に縁錆(ふちさび)を施し、全体の印象を引き締めている。裏面に瓢箪形の付け高台、高台内に目跡2個を残す。5客揃いで伝世。



見どころ ③ 青磁の魅力を徹底追求

青磁釉とは釉中の鉄分によって青緑色に発色する釉薬。そう一口に言っても、その色調は同時代に作られたものであっても、深い青緑から黄味がかかったものまで幅がみられます。今展では伊万里焼の青磁を時代順に並べてそのヴァリエーションをご紹介します。加えて、鍋島焼や波佐見焼などといった伊万里焼と近い産地で作られたものや、中国や高麗の青磁も展示。産地や時代によって変化する青磁の魅力をお楽しみください。

(右) ⑤ 青磁 瓶

伊万里 江戸時代（17世紀前期） 高 24.0 cm

緑味を帯びた青磁瓶。本作のような器形は玉壺春瓶(ぎょっこしゅんへい)と呼ばれ、下ぶくれの胴部に細い頸、ラッパ形に開く口を持つのが特徴である。青磁の色調は窯内の酸素濃度によっても変化するため、酸化焼成気味の箇所は所々茶色く発色している。素直な造形の作品。



伊万里周辺で作られた青磁と中国の青磁



【比較作品】青磁 桔梗口双耳瓶

鍋島 江戸時代（17世紀末～18世紀初）
高 28.1 cm

鍋島焼には中国の青磁に倣ったものが多くみられる。素地が白いためそれよりも明るい発色になるのが特徴。



【比較作品】青磁 貼付梅花文 盃台

波佐見 江戸時代（17世紀中期） 高 6.7 cm

波佐見では磁器焼成開始から僅か 20 年足らずで、良質な青磁の生産が開始された。本作も 1630 年代から 1650 年代頃、国内富裕層に流通したものであろう。淡い水色に発色した青磁釉が見事。



【比較作品】青磁 瓶

龍泉窯 元時代（14世紀） 高 27.6 cm

玉壺春と呼ばれる器形の青磁瓶。全体に緑味を帯びた青磁釉が掛かる。形、釉調ともに完成度の高い、龍泉窯最盛期の優品。

『古伊万里にみるうわぐすり展』 展覧会概要

会期：2018年1月7日（日）～3月21（水・祝）

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤 1-11-3

開館時間：10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）

※毎週金曜日は 10:00～20:00（入館受付は 19:30 まで）

休館日：月曜日

※1月8日・2月12日（月・祝）は開館、

1月9日・2月13日（火）は休館。

※毎月第4月曜日はフリートークデーとして開館。

入館料：一般 1,000 円/高大生 700 円/小中生 400 円（団体 20 名様以上で 200 円割引）

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。



会期中のイベント



展示解説

展示期間中、当館学芸員による展示解説を行います（各回所要時間 60 分程度）。

■第2・第4水曜 14 時～（1月10・24日、2月14・28日、3月14日）

■第2・第4土曜 11 時～（1月13・27日、2月10・24日、3月10日）

■予約不要（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）



フリートークデー

毎月第4月曜日は、館内でのお話をご自由にお楽しみいただけるフリートークデーとして開館いたします。

■10 時～17 時（入館受付は 16 時 30 分まで）（1月22日、2月26日）

■14 時～ミニパネルレクチャーを開催（予約不要、入館券をお求めの上ご自由にご参加ください）



とぐりの学芸員講座

やきもの鑑賞をより楽しむためのポイントを当館学芸員がご紹介する講座です。

2018年2月19日（月）14 時～ 黒沢愛（GM/学芸員）「古伊万里入門ー所蔵品と陶片にみる歴史と魅力ー」

2018年3月12日（月）14 時～ 小西麻美（学芸員）「三川内焼ー網代陶石採掘場跡地を訪ねてー」

各回 90 分程度、参加費 500 円（入館料を別途お求め下さい。）先着 35 名様。

お電話にてお申し込みください。（03-3465-0070）



戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987 年 11 月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



■次回展示予定

金襴手

ー人々を虜にした伊万里焼ー展



2018 年 4 月 4 日（水）
～6 月 21 日（木）

展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館

広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL：03-3465-0070 FAX：03-3467-9813

URL：http://www.toguri-museum.or.jp/

E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp



TOGURI MUSEUM OF ART

戸栗美術館